

平成22年度 第1回二宮町地域環境推進員会議 会議録

日時：平成22年6月17日(木)

午前10時～午前11時50分

場所：二宮町役場2階 第1会議室

出席者：一色 関口氏 / 緑が丘 加藤氏 / 百合が丘2丁目 川上氏 / 百合が丘3丁目 松尾氏
/ 中里 松本氏 / 元町北 添田氏 / 元町南 関山氏 / 富士見が丘1丁目 波多野氏 /
富士見が丘2丁目 近藤氏 / 富士見が丘3丁目 迫氏 / 松根 由良氏 / 上町 鈴木氏
/ 下町 池田氏 / 梅沢 松本氏 / 越地 石塚氏 / 茶屋 西山氏 / 川匂 椎野氏

欠席者：百合が丘1丁目 岡村氏 / 中町 橘川氏 / 釜野 渡辺氏

事務局：野谷環境部長 / 筑紫生活環境課長 / 西岡環境政策班長 / 石原主任主事 /
松本主事補

傍聴者：なし

1. 開会

2. あいさつ

野谷環境部長より

- ・積替施設の必要性及び建設の進捗状況について
- ・可燃ごみ50%削減という目標への進捗状況
- ・環境部発足から広域復帰までの経緯
- ・広域復帰に伴う今後の動き

3. 各地区地域環境推進員及び事務局の自己紹介

4. 議題

生活環境課長により議事進行

【説明事項】

- (1)二宮町地域環境推進員について
- (2)平成22年度の活動計画(案)について
- (3)二宮町の廃棄物処理の現状について
- (4)その他(水切りネット配布事業、過去の推進員の活動事例、ベスト等の準備について)

(1) 二宮町地域環境推進員について

【意見・質問等】

委員：地域環境推進員の活動範囲はごみの問題だけか？環境全体ではないのか？

事務局：要綱にもあるがごみを主として扱う。環境全体については「環境審議会」というものがあるが、実働的なものではなく、施策にかかわるようなことが中心となる。余力があれば、事務局が担当課なのでお気づきの点をご進言いただきたい。

委員：公園美化など、環境の他のことを専門的にやる委員はあるのか？

事務局：ない。

委員：生活環境課が担当しているので、名前は生活環境推進員が良いのではないか？

委員：ごみのことをやるなら、名前にごみと入れたほうがいい。言葉でごまかしている感じがする。直さなくてよいが姿勢的に引っかかる。

事務局：地域環境推進員とは別に「ごみ減量化推進協議会」という、具体的な施策などを町に提言するものもある。地域環境推進員には、ごみの減量化について町と地域のパイプ役として主体的にやっていただきたい。

委員：地域環境推進員という名前だと誤解してしまう。

事務局：ご指摘いただいたことには想定外だった部分もあり、ここで結論が出ないところもあるので、内部で検討して次回には説明できるようにしたい。

委員：要綱に研修会のことが書いてあるが、1期のときはなかった。やってほしい。

(2) 平成 22 年度の活動計画(案)について

(3) 二宮町の廃棄物処理の現状について

※続けて説明を行った。

【意見・質問等】

委員：ごみの組成が細かく出ているが、どうやってサンプルをとったのか？

事務局：まず 2 トン弱のごみを運ぶ収集車 4 台から、無作為にごみを約 50 キロずつ抽出する。この計 200 キロのごみから「四分法」という方法により、最終的に約 10 キロをとった。

委員：可燃ごみ削減の目標が出たが、対何年度か？平成 19 年度のごみ減量化緊急宣言とあわせて説明してほしい。

事務局：平成 19 年 9 月にごみ減量化緊急宣言を出して、町民に減量化をお願いする際、前年の 18 年度の可燃ごみ量を基準に、24 年度までに 50%削減することを目標とした。

委員：地区長のときと違い次回の日程がはっきりしない。働いているので動きづらい。

事務局：日程については今の段階では決まっていないが、早急に設定しお伝えしたい。

委員：年 3 回の会議で他の 20 地区の委員と交流してほしいと言われても、顔すら覚えられないと思うが、どう考えるか？

事務局：個人としての交流とは考えていない。情報交換の時間などで、他地域の様子を知っていただき、自分の地域で活動する際の参考にしていただきたい。

委員：50%削減は広報紙でも宣伝し、地区長協議会でも話が出ている。独自にやる必要があるか、どの程度効果があるか疑問である。何をしていたのかもわからない。他のキャンペーンで効果があがっているなら、必要ないのではないかと引き続きやられている方はどう考えているのか聞きたい。

委員：去年までの2年間の総括がないので、何をやっていたのかわからない。総括のあとで、3～4年目はこういう戦法でいこうという展望を出してほしかった。

事務局：町としてはごみ減量は、住民運動のようになってほしい。職員主導でなく地域の方を中心に、自発的に盛り上げてほしいので、こういう形をとってお願いしている。

委員：それなら地区ごとに分析データを出してもらえないか？毎月でなくても、定期的にデータがあれば、地域の人にこうしてくださいと言える。町全体のデータで一般論を言われても、手の打ちようがない。

委員：あなたの地域は1人あたり何キロ出しているというようなデータがほしい。そうすれば減らさなければまずいと町内会で言える。隣の地区と比べさせればいい。

事務局：地域間競争になってしまうのは困る。

委員：そうでないと動かない。このデータは見た目は良いが役には立たない。

委員：目標は遠いが、数字は動いている。もう1歩進めるため、今までと違う戦い方をしたらいい。

委員：地区ごとのデータは去年出ている。

委員：そういうデータをもとに目標をたてるなら良い。

事務局：昨年水切りネットを配布した関係で、出したデータのことを言っていた。これは今回集まっている20地区ではなく、17のごみの収集地区に対して出した。

委員：それは一人当たりになっていたか？

事務局：なっていない。17の収集地区は道路等で分かれたもので、20地区1人あたりは非常に出しにくい。17地区でなら、3か月に一度くらいの調査は検討できるのだが。

委員：それだと、自分の地区がどうであるという話がしにくい。

委員：50%の根拠は何か？まわりの市町村と比べて二宮はこれだけ多いとか、具体的な皆にも話しやすい。ただ漠然と半分では困る。

事務局：町は焼却場がなく、他で処理してもらっている。大きな目標として50%削減がある。

委員：焼却場がないのは町民運動で焼却させないようにした町民の責任。前よりお金がかかるなら受益者負担で袋の値段をあげればごみが減る。いっそのこと「いつまでに30%達成できなければ料金を2倍にする」と、どこかに書けばいい。

事務局：平塚市にできる新焼却炉の処理能力は315トンで、二宮分は計算に入っていない。そこで1市2町でやるために平塚と大磯が減量したが、二宮のごみ量では処理能

力を超えるという状況になれば、最後の手段として値上げの可能性はある。しかし現段階では町民との信頼関係の中で、ごみを減らしていきたい。

委員：ふれあいトークで、広域処理時には焼却コストが今より明らかに下がると聞いた。安心と同時に負担が減って良いと思ったが、今後も減量化や分別は必要で、たがを外してはいけない。そういう意味で、町民に期待してもらうのは構わない。

事務局：ご理解いただけてありがたい。ただし町長も言っているが、直接の焼却コストは下がっても、負担しなければならぬ処理、施設について考えなければならない。

委員：前やったごみの説明会は、毎年やったほうがよいと思うので検討してほしい。1期は何をしていたのかという話があったが、50%削減のため役場にも何度も説明してきた。推進員であることを示すものもなく、各地域の活動がばらばらになってしまった。役場で中継するなど、もう少し動いてほしかった。

委員：私は過去2年間何もやっていなかったと言うつもりはない。ごみが減ればいちばんいいこと。1期の結果を活かして、私たちがうまく使ってほしい。

委員：可燃ごみを減らすということは、毎日出るごみの袋の中から水分を減らすこと。水分を減らせばごみが減る。

(4) その他(水切りネット配布事業、過去の推進員の活動事例、ベスト等の準備について)

委員：こんなベストを着て歩いたら、カラスのつついたあとを片付けさせられる。そういうことをわかってもらいたいし、その上で着させるならカラス対策も考えてほしい。ごみの問題を扱うなら最初に入っていくべき部分であり、ネットがあっても荒らされているごみ置場が多く困っている。

事務局：着るのは強制しない。何もないと地域の人にお願いをしにくい、着ていけばそういう活動をしている人だとわかるという意見があったので考えた。

委員：地区でのごみの説明会は、しなくてもよいのか？

事務局：町には今年度は説明会の予定はない。地区で要望があればやらせてもらう。

委員：分別が複雑で高齢者は理解できない。もっと楽にしてもらえないか。ルールにある程度幅がないと住民はピリピリしてくる。

事務局：なぜここまで細かくわけているか、ご理解いただけていない部分があるので、実情を説明する必要があるし、変更も考えたい。

委員：その他樹脂には汚れが落ちにくいものがあるが、燃料にするならきれいな状態でも良いのではないか。

事務局：その他樹脂は燃料にするとしても、燃やすまでに時間がかかり、業者から引き取りを断られることが懸念される。どこまで落とすかは、協力可能な範囲でお願いしたい。

委員：50%削減するための具体的な案が出ていないが大丈夫か？町が配布した水切りネットについて、知り合った保護者10名弱に聞いてみたが、正しく理解している人

は少なかった。ごみを実際に出している主婦に、小中学校、幼稚園などでPRしなければ浸透しないのではないか。会議にも実際にごみを出す女性が出てきて、具体的にやるべき。出たごみをどうするかより、ごみをまず出さないというところから啓発しないと、50%削減はできない。

事務局：確かに言われるとおりではあるが、今回については水分の削減をやっていきたいと考えており、お願いしたい。

5. 閉会